

第5章 重点プロジェクト事業

<中間見直し>

第4章で、「自然環境の保全」、「循環型社会の形成」、「温暖化防止・クールタウンの構築」及び「環境教育等 共通分野」の4分野に位置づけられた重要施策として取り組んでいく、4つの重点プロジェクト事業の内容を示します。この重点プロジェクト事業は、多方面・多種類にわたる環境への取組の中から特に重点化して、市民・事業者・市が一体となって推進すべき事業について検討し、環境に関する他の具体的取組事業を先導するプロジェクトとして設定したものです。

1. 自然環境の保全 分野

プロジェクト名	生物多様性を守るプロジェクト
現状・課題	<p>本市には、豊かな自然環境や美しい河川があり、多様な動植物が生息しています。これらは次世代に引き継いでいく市の財産であり、将来にわたって守っていく必要があります。市では、かねてより三和のゲンジボタルや国指定天然記念物ネコギギの保護に力を入れており、生息地域の把握やカワゲラウォッチングなどの生物観察を行ってきました。また、オオキンケイギクなど特定外来種植物や国内外来種魚オヤニラミの調査・駆除など生態系の保全の必要性を啓発する活動を行ってきました。</p> <p>近年では、生物多様性という言葉そのものの認知度が高まりつつありますが、特定外来生物による生態系への影響や里地・里山・里川を守る取組についての理解や行動については、十分とは言えない状況です。今後は、これらの取組を地域に浸透させるため、市民、事業者、市が一体となって保全活動を行っていく必要があります。</p>
取組の方向性と事業内容	<p>生物多様性を守る取組として、みのかも定住自立圏の町村と連携して加茂圏域における自然環境基礎調査を行います。今後より一層、市民や周辺地域住民の理解を深めるため、あらゆる機会を通じて生物多様性について周知啓発するとともに、生物との共生を目指すための事業を推進し、自然環境保全の意識向上を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生物観察、自然観察、里山歩き等の自然環境に関する学習会の開催 ○自然環境基礎調査の実施 ○レッドデータブック・生物多様性地域戦略の作成 ○外来種生物の調査・駆除 ○里地・里山・里川の保全、遊歩道等の整備 ○有害鳥獣の調査・駆除
市が率先して取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○自然観察学習会、特定外来生物の生息調査・駆除活動を実施します。 ○有害鳥獣の駆除や里地・里山・里川の保全・整備を目的とする事業を推進します。 ○市民団体、大学、地域まちづくり協議会と連携し、自然環境基礎調査・レッドデータブック作成、生物多様性地域戦略の策定を行います。 ○生物多様性の保全活動について広報紙等で周知・啓発を行います。
市民・事業者が取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○自然観察会学習会、特定外来生物の生息調査・駆除活動等に参加します。 ○市の機関と連携し、貴重な動物・植物の現況調査に参加します。 ○美濃加茂市に生息・生育する動物・植物のうち、国・県のレッドデータブックに記載されている種や、市としての重要種の現状を理解し、保護活動を行います。 ○市の機関と連携し、有害鳥獣の防除に取り組みます。

環境まちづくり プランの目標	成果指標	現状値	目標値 (H31)
	自然環境に関する学習会の年間開催回数	12回	20回
	レッドデータブック・生物多様性地域戦略の作成	未作成	作成・公開
第5次総合計画 の目標	成果指標	現状値	目標値 (H31)
	カワゲラウォチング実施個所の水質 (調査箇所の平均値)	Ⅱ ややきれいな水	I きれいな水
	「里山千年実施計画」に基づいた実施プログラム実行事業	0事業	6事業

2. 循環型社会の形成 分野

プロジェクト名	循環型社会をつくる4Rを推進するプロジェクト
現状・課題	<p>世界的に環境問題が注目を集めており、市民の間でも、ごみの減量や分別、マイバックやマイはしの携帯など「循環型社会」の取組が進められています。本市では、市内で出された資源ごみの有効利用や家庭生ごみの減量について、市民や団体と事業者、市が一体となって取り組む地球資源集団回収や有機菜園の普及啓発、生ごみの堆肥化・水切り、廃油せっけん作りなどを進めてきました。しかしながら、1世帯当たりのごみの排出量が可茂管内で最も多い状況であり、環境への負荷を軽減させるために、①必要でないものは断る「リフューズ」、②発生させない「リデュース」、③再利用する「リユース」、④再び資源化する「リサイクル」の「R」から始まる4つの行動「4R」を地域に浸透させて推進する必要があります。</p> <p><用語解説> 循環型社会・・・ 大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会に代わるものとして提示された概念で、廃棄物等の発生抑制、資源の循環的な利用及び適正な処分が確保されることによって、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会のこと。</p>
取組の方向性と事業内容	<p>市民、事業者、市が一体となって「4R」を推進するために、ごみのもとをなくす「リフューズ」と「リデュース」を地域に浸透させるとともに、「リユース」と「リサイクル」の継続した取組により、資源の有効活用に努めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民団体・事業所による資源集団回収活動の推進 ○有機菜園、生ごみの堆肥化、ダンボールコンポスト作り、廃油せっけん作り等のごみ減量化に関する講座の開設、食品廃棄物の減量化 ○事業所との連携によるレジ袋削減、割箸自粛協力店の増加 ○廃食油、間伐材、剪定枝等を活用した燃料転換や堆肥化の推進
市が率先して取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみ減量機器購入助成制度の普及と市民団体による地球資源集団回収の奨励制度を拡充して「4R」を推進します。 ○廃食油等を回収し、BDFへの燃料転換を推進します。 ○ごみをもとからなくす「リデュース」と「リフューズ」の取組や食品ロスに対する取組を広報紙、メール、CATV等で普及啓発します。 ○市民、団体、事業者が取り組むごみ減量・抑制に関する事業を支援し、ごみ減量化に関する情報提供や講座・学習会を開催します。

市民・事業者が 取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○「4R」を推進する消費行動や企業活動に取り組みます。 ○地域における集団資源回収活動に積極的に参加します。 ○ごみ減量機器購入補助金を活用して家庭生ごみ等の減量に努めます。 ○食品廃棄物の減量化に取り組みます。 ○「4R」を推進するための活動やごみ減量化に関する講座に参加し、ごみ減量行動を実践します。 		
	成果指標	現状値	目標値 (H31)
	ごみ減量化に関する講座の年間開催回数	3回	10回
	1日1人当たりの可燃ごみ排出量(事業所)	261g	247g
第5次総合計画の 目標	成果指標	現状値	目標値 (H31)
	年間資源回収量	3,005t	3,300t
	ごみ減量機器助成件数(累計)	3,072件	5,300件
	1日1人当たりの可燃ごみ排出量(家庭)	447g	428g

3. 地球温暖化防止・クールタウン構築 分野

プロジェクト名	地球にやさしいエコタウンプロジェクト
現状・課題	<p>地球温暖化によって世界各地で起こっている気象変化の影響は、日本にも及んでおり、緊急に対応すべき課題となっています。東日本大震災以降の原子力発電所の稼働停止により、石炭化石燃料への依存が高まり温室効果ガスが増加しています。近年の夏場の猛暑や集中豪雨は異常気象といえるものであり、温室効果ガスの削減は急務となっています。これまで、緑のカーテンや家庭における環境家計簿の普及を進めてきましたが、十分な取組とはいえません。</p> <p>今後は、より一層の低炭素社会の実現に向けた取組が必要であり、省エネルギーやヒートアイランドの緩和に向けて、家庭や事業所の節電、省エネ運転、再生可能エネルギーの導入、エコカーやBDF（バイオディーゼル燃料）車の導入、地産地消の推進や地元産木材の利用など多様な取組が必要です。</p>
取組の方向性と 事業内容	<p>市民、事業者、市が連携して、省資源・省エネルギーに配慮した低炭素社会の形成に向けた取組を実践します。CO₂削減に向けて省エネ運転、冷暖房の温度設定、待機電力などの知識の普及・啓発を行い、多様な取組によりエネルギーの節約につなげます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○緑のカーテンコンテストの開催 ○電力事業者と連携した環境家計簿の普及・啓発 ○ライトダウンキャンペーン、キャンドルナイトイベントの開催 ○地産地消の推進・地元材木の利用啓発 ○エコカー、BDF車の導入 ○再生可能エネルギー、新エネルギー、高効率機器の導入促進

<p>市が率先して取り組むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○緑のカーテンをコンテスト開催や広報紙等で普及します。 ○電力事業者が実施している環境家計簿の利用を促進します。 ○ライトダウンキャンペーンやキャンドルナイトイベントを開催し、エネルギーの節約や地球温暖化防止を広報紙等で呼びかけます。 ○家庭や事業所における太陽光発電システム、燃料電池システム、薪ボイラー等の再生可能エネルギー機器導入や高効率機器（LED照明、省エネ型エアコン等）への転換を普及促進します。 ○風力、間伐材チップやバイオエタノール、小水力発電など新エネルギーの活用について調査を進めます。 ○クール・ビズ、ウォーム・ビズを進め、実施していない施設や団体に対して啓発します。 ○市で使用する自動車や電気などの利用に当たっては、温室効果ガス削減実行計画に基づき、エネルギーの削減を実行します。 		
<p>市民・事業者が取り組むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○省エネ運転、冷暖房の温度設定、待機電力の削減などエネルギーの節約に取り組めます。 ○緑のカーテンの取組や環境家計簿を利用します。 ○再生可能エネルギー機器を導入します。 ○高効率機器（LED照明、省エネ型エアコン等）への転換に取り組めます。 ○自動車燃料の使用削減、エコカーの導入に取り組めます。 ○クール・ビズ、ウォーム・ビズを行います。 ○農作物などは、地元の商品を購入します。 		
<p>環境まちづくりプランの目標</p>	<p>成果指標</p>	<p>現状値</p>	<p>目標値 (H31)</p>
	<p>再生可能エネルギー導入件数 (家庭・事業所 累計)</p>	<p>2,049件</p>	<p>2,250件</p>
	<p>緑のカーテンコンテスト応募件数</p>	<p>30件</p>	<p>100件</p>
	<p>地球温暖化防止講座・啓発等行事 年間開催回数</p>	<p>5回</p>	<p>10回</p>
<p>第5次総合計画の目標</p>	<p>成果指標</p>	<p>現状値</p>	<p>目標値 (H31)</p>
	<p>家庭から排出されるCO2 排出量 (1人当たり)</p>	<p>2,425kgCO2</p>	<p>1,935kgCO2</p>
	<p>緑のカーテンによる効果度(アンケート)</p>	<p>90%</p>	<p>95%</p>

<説明>

※家庭から排出されるCO2 排出量については、美濃加茂市の排出量が把握されていないため、岐阜県平均を用いていますが、平成19年度比10%削減を目標としています。岐阜県内のデータは、算定に時間がかかるため2年遅れとなっておりますが、岐阜県ホームページ上で公表されています。

※再生可能エネルギー導入件数は、資源エネルギー庁（市町村別）が公表する資料に基づきます。

4. 環境教育等共通分野

プロジェクト名	次世代につなげる環境教育プロジェクト		
<p>現状・課題</p>	<p>環境の保全には、世代を越えた継続的な行動や活動が重要です。そして、環境への関心や理解の促進が大切です。幼い頃から環境への関心を高め、環境美化や保全を意識した行動に結びつけるとともに、学校や社会における環境教育の充実を図る必要があります。</p> <p>また、市民の環境への意識を高めるため、これまでも環境学習講座を開催していますが、講座の参加者が少ない状況にあり、環境問題への関心や理解が十分とはいえません。環境教育リーダーやサポーターを育成し、地域や世代に即した環境教育に力を入れることが必要です。</p>		
<p>取組の方向性・事業内容</p>	<p>市民、事業者、市が連携して、次代を担う若い層の環境に対する関心を高め、多様な活動に参加できるような環境教育プログラムを開発します。特に、小中学校における環境教育に力を入れるとともに、環境教育指導者・リーダーや環境サポーターを育成し、すべての世代を対象とした環境保全意識の向上を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境教育・啓発を目的とした環境フェア等のイベント開催 ○小中学校向け環境教育プログラム作成、出前講座、カワグラウォッチングの実施 ○小中学校の環境教育で活用できる環境副読本の作成 ○小学校の「こどもエコクラブ」活動の推進 ○中之島公園内に開設する自然環境学習施設における常設型環境ポスター展・絵画展や環境学習講座の開設 		
<p>市が率先して取り組むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校環境教育プログラムを作成し、環境教育講座を企画運営します。 ○小学校に対して「こどもエコクラブ」の登録・活動方法についてPRします。 ○市民のニーズに応じた環境学習講座、出前講座を開発します。 ○環境学習拠点施設における常設型の環境ポスター展・絵画展を開発します。 ○みのかもクリーン作戦などの環境美化活動を推進します。 ○環境教育リーダーやサポーターを育成します。 		
<p>市民・事業者が取り組むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○環境教育・学習講座に積極的に参加します。 ○環境教育指導者・リーダーやサポーターとして市が実施する事業に協力します。 ○学校で学んだ環境保全の行動を家庭や地域に広げて発展させていきます。 ○みのかもクリーン作戦や自治会で主催する清掃活動などに積極的に参加し、環境保全活動を実践します。 		
<p>環境まちづくりプランの目標</p>	<p>成果指標</p>	<p>現状値</p>	<p>目標値 (H31)</p>
	<p>環境教育・学習講座の年間開催回数</p>	<p>15回</p>	<p>30回</p>
	<p>環境教育リーダー・サポーター養成講座受講者数(累計)</p>	<p>—(未実施)</p>	<p>100人</p>
<p>第5次総合計画の目標</p>	<p>成果指標</p>	<p>現状値</p>	<p>目標値 (H31)</p>
	<p>環境フェアの来場者数</p>	<p>1,600人</p>	<p>3,000人</p>
	<p>クリーン作戦への参加者数</p>	<p>10,119人</p>	<p>12,500人</p>